

パッケージデザインという仕事

塩沢喜徳 (高31回)

私達の身のまわりの物やサービスにはデザイナーが携わっていますが、パッケージデザインもその一つです。それは多種多様で多岐にわたります。私がパッケージデザイナーとなり、今なお現役を続けていられるのには、きっかけとなる多くの方々のご縁がありました。

イラストレーターへの憧れ

中学3年の卒業文集のクラスの扉に描いたイラストを目にした副担任(美術担当)が、母親に「塩沢君はイラストレーターになると良いかも」と言ったそうです。それを伝え聞いた私は、イラストレーターとは「絵を描く職業」だと知り、興味を持ちました。

通信講座のイラストの添削と我流のイラスト制作に夢中になっていました。高3になり、そろそろ進路を決める頃に、美術の教育実習に来た久保田秀明さん(高26回)

ということでした。デザイナーの意向に沿ったイラストを提供する立場であることを自ら経験し、デザイナーに専念することにしたのです。

右肩上がりに景気は上向き、パッケージデザインの受注が増えて、自分の作品(製品)が溜まりはじめた頃のことです。デザイナーのコンペに作品を応募すると、運良くJPC(日本パッケージコンペティション)で通商産業大臣賞を受賞しました。これが、ますますパッケージデザインの魅力に引き込まれるきっかけとなりました。クライアントの中でも、岡山の御前酒蔵元辻本店の社長は「塩坊のデザインが好きだ」と、自由にデザインさせてくださり、おかげで幾つかの賞をとる事ができました。

独立するが、前途多難

当時、世はバブル景気。友人の何人かは独立しました。デザイナー事務所を構えて活躍する姿は華々しく、また羨ましく見えて、私も独立の気分が高まりました。

在職6年後、「もつとメジャーな仕事がいい」との欲と、「なんとかなるさ」の勢いで、SIO DESIGNを設立しました。前勤務先との取り決めで、クライアントを引き継がず、営業活動を開始しましたが、なかなか仕事に結びつきません。そんな時、T印刷に勤めていた前出の



●しおざわ・よしのり
松川町出身。(有)SIO DESIGN 取締役。JPD A 会員。NDP A 会員。桑沢デザイン研究所非常勤講師。JPC 通産大臣賞、日本パッケージデザイン大賞奨励賞、L I A A グランプリ、Pantwards 金賞等受賞多数。

は東京藝術大学在学中で松川町出身。小中の同級生の兄でした。こんな機会は二度とないと思い、私の拙いイラストを見ていただき進路について相談すると「イラストレーターになるにしても、デザインの事が解っていた方が良いから、まずはデザインの勉強をなさい」と言われ、進路を変更、デザイナーの学校に通うことになりました。

現実を知りデザイナーに

桑沢デザイン研究所在学中は、デザインの勉強をしつつ、バルコ主催のイラストレーション大賞に応募するなど、イラストレーターを目指していました。

卒業後、まずは生活のために小さなデザイン会社に就職しました。そこで初めて現実の世界を知ることになります。それは、一部の著名なイラストレーターを除けば、自分の描きたいものを自由に描いていてのではない

久保田秀明さんから連絡をいただきました。「塩君は何のデザインをしたいの?」との問いに、パッケージデザイナーである旨を伝えると、勤務先のパッケージ部門を紹介してくれました。

今まで手掛けていたデザインと量販店向けの食品等のデザインの表現方法の違いに当初はとまどいました。世界観や高級感を追求する嗜好性のデザインとは違い、店頭で競合商品に負けない強さ、わかりやすさ、目立ち度などを求められるデザインは、180度真逆の世界でした。「塩さんのデザインは弱いんだよね」とディレクターからよく言われたものです。しかし「郷に入っては郷に従え」と、徐々に要領を得ていきました。万人受けを狙った強いデザインを求められ、それに順応するすべを身につけた時代でした。

バブル崩壊からロンドン国際広告賞受賞

独立して数年経つと、デザインの仕事がなくなりました。ワンルームの小さな事務所は、掃除もあつという間に終わり、時間を持て余していました。何をしようかと考えた末に思い立ったのは、リニューアルデザインの売り込みでした。就職1年目に手掛けたデザインを今の自分の感覚で作直そうと制作したのが佐賀の蔵元、窓乃

梅酒造の純米大吟醸でした。ネーミングもあわせて提案した「梅月相思」

は、梅と月が相思う世界観を伊万里焼の吹き墨をイメージした表現でデザインしました。すると、タイミン



「梅月相思」で、ロンドン国際広告賞グランプリを受賞。ロイヤル・ランカスター・ホテルでの和気式、霧田重厚なトロフィーを両脇に抱いて



1995」の作品募集がありました。国内のデザイナーコンペに懐疑的な印象を持っていた時期でもあり、海外のコンペなら公平に審査されるだろうとの期待を込めて2点応募してみたところ、「梅月相思」でグランプリ受賞の内示をいただいたのです。LIAA(現・LIA)は、テレビ・シネマコマースシャル、プリント広告、ラジオコマースシャル、パッケージデザイン等の4部門からなり、70か国1万1467点の応募作品が審査されました。もう1点はM製菓のバレンタインデー向けの本命チョコの企



「爽健美茶」2006 代表作となった「爽健美茶」2002

パッケージを担当した「爽健美茶」は、SIO DESIGNを代表する作品になりました。

皆さんもご存じの爽健美茶は、若い女性をターゲットにしたブレンド茶です。「塩沢さん、爽やかで、健康的な女性は上を向いて歩くといいですよ。木洩れ日をデザインしたのですが、良いですか」と

いう社員の一言がデザインの方向性の決め手となりました。初回コンペで選考に残ってから、何度となくデザインのための調査を繰り返します。調査方法はいろいろありますが、この時はコンビニの棚を再現してダミーを並び、モニターにアンケートを採る方法でした。そのアンケート結果を元にデザイン修正を加えます。「木洩れ日」の表現方法も模索し、試作を繰り返しました。そして3回目の調査のためのプレゼン直前に仕上がったのは、それまでのデザインとは異なる何とも言えない情緒を感じるものでした。

結果は、予定していた調査は中止され、満場一致で採用決定。初回のオリエンテーションから約半年に及ぶデザイ

画で、実はこちらのデザインのほうが自信があったのですけれど。

受賞と前後して、ギフトのデザインが増えました。ギフトは見栄え優先、デザイン、印刷にも凝ることが出来ます。デザイナーとしては、やり甲斐のある仕事です。ナショナルブランドのデザイン(NB)メーカーが有するブランドで全国どこでも購入できるような商品や通年の嗜好品、飲料、プライベートブランド(PB)スーパードヤパートなど販売業が独自で展開する商品のデザインに打ち込みました。

ちょうどアナログからデジタルへの移行が進み、デザイナーの世界が大きく変動した時代でした。Mac操作が得意なスタッフの加入もあり、疑似3Dでのプレゼンとデータは好評を博して、SIO DESIGNのプレゼンテーションのスタイルを構築した時期でもありました。

「爽健美茶」のデザイン誕生秘話

2000年頃、C社のスポーツドリンクのコンペに参加する機会をいただきました。残念ながらコンペには敗れましたが、最終案5点中2点がSIO DESIGNの作品であったことから、その後数々の飲料などのデザインを担当させていただきました。中でも2002〜10年の

ンワークはこうして日の目を見ることになったのです。

これからは調査に左右されないデザインを

最近、故郷に足を運ぶ機会も増えました。30年近くお付き合いのある信州まじ野ワイン、南信をシールドで盛り上げようと生まれたワイナリー&サイタリー(シールド醸造所)VINVIE、飯田の和菓子店、和泉庄(いづしや)いと忠のパッケージデザインなどをお手伝いしています。銀座NAGANOでお目に触れる機会もあるかと思えます。特に和泉庄は歌舞伎座の売店に常設しています。特に焼きたての大ききんつばが食べられます。コロナ禍から解放された暁には、ぜひ足を運ばれたらいかがでしょうか。

最後になりますが、2012年に他界された御前酒蔵元の辻社長に言われた言葉があります。「今度は、塩坊の枯れたデザインが見てみたい」。機会があれば実現したい課題です。



老舗「赤福」の「銘々箱」。伊勢神宮の式年遷宮に合わせ提案した、新しい時代の土産物の形(クリエイティブ・ディレクター/久保田秀明)



和泉庄創業二百周年記念「大ききんつば」